

令和2年度「押原小学校 学校評価 保護者アンケート」結果と考察

令和2年12月

- ・本校の保護者216世帯を対象に、学校評価アンケートを12月に実施した。
- ・回答方法は、各世帯1回のみでの回答とした。
- ・紙によるもの35件、インターネットによるもの155件、合計190件。87.9%の回答率である。

1 そう思う 2 どちらかというと思う 3 どちらかというと思わない 4 そう思わない

表中の1~4の各数字はそれぞれの回答者割合(%)

評価項目			1	2	3	4
生徒指導	①	児童は、生き生きと学校生活を送っている。	67	31	2	0
	②	教職員は、児童を理解し、相談事や悩み事に適切に応じている。	64	35	1	0
	③	学校は、児童の望ましい生活や人間関係づくりのための指導を行っている。	57	42	1	0
学習指導	④	教職員は、分かりやすい授業に努めている。	74	25	1	0
	⑤	教職員は、思考力や表現力などを高める授業(ノートに自分の考えや友だちの考えを書いたり、振り返りをしたり、発表したりすること)に努めている。	64	33	3	0
	⑥	学校は、児童の道徳心を高める指導を行っている。	61	37	2	0
	⑦	学校は、児童の体力向上や健康の保持増進のための指導を行っている。	60	38	2	0
安全指導	⑧	学校は、家庭学習について家庭と連携を図っている。	42	51	7	0
	⑨	学校は、児童の安全な登下校のために安全指導を行っている。	61	33	4	2
	⑩	学校は、災害や犯罪発生を想定した対応に取り組んでいる。(避難訓練・引き渡し訓練・防犯訓練等)	72	27	1	0
学校・保護者の連携	⑪	学校は、コロナ感染症予防の対策を適切に取り組んでいる。(健康チェック表・手指の消毒・マスクの着用・教室の換気・給食前の机の消毒等)	80	18	1	1
	⑫	学校からの通知やお便り、ホームページなどは、保護者に必要な情報を伝えている。	76	22	2	0
	⑬	家庭訪問、個別懇談、地区別授業参観などは、教職員と保護者が相互に理解を深めたり課題を共有したりする機会になっている。	71	27	1	1
	⑭	学校は、保護者の意見や要望に対して適切に対応している。	54	44	2	0
	⑮	コミュニティ・スクールとして、学校と地域との連携を深める取組が行われている。	55	43	2	0

今年度より、全家庭を対象として保護者アンケートを実施した。約88%の回答率であった。

15項目すべてにおいて、「そう思う」「どちらかというと思う」の回答割合の合算が93%以上となった。また1つの項目(⑧)を除く全項目において、「そう思う」の回答割合が最も多い結果となっている。このことから、学校が2学期末までに行ってきた教育活動において概ね肯定的な支持をいただいたと考えることができる。

家庭学習に係る家庭と学校との連携に関する項目(⑧)では、15項目の中で唯一、「どちらかというと思う」が「そう思う」よりも比率が多い結果となった。後述の通り自由筆記欄を通じても家庭学習に関する意見が寄せられている。学校・家庭が家庭学習の内容や方法について、具体的に意識を共有していく必要性が導かれる。今後、家庭学習について、その目標や達成させたい基準、放課後児童クラブに行っている間や家庭における確実な実行へむけた約束事、宿題の量など、具体的な視点から、家庭との共通理解をできるだけ進めることが必要であろう。

また、「そう思う」の回答割合が最も多い結果ではあるものの、「どちらかというと思う」の比率が他の項目よりもやや高めになっている項目が3つ(③, ⑭, ⑮)ある。児童の望ましい生活や人間関係づくりに向けた指導(③)、保護者の意見や要望への適切な対応(⑭)、学校と地域との連携に関する取組(⑮)に関しては、本年度の実践を全校または学年・学級で具体的に振り返り、今後への改善を図りたい。

自由記述欄を通じては31通のご意見をいただいた。自由記述欄においても、肯定的支持的な意見が多数である。コロナ感染症対策をとる中での学校教育活動に対し感謝の言葉が綴られたり、子どもが楽しく学校に通っている様子が記されたりと、子どもが元気に学校に通う姿を通して、学校への評価がなされていることがわかる。今後とも児童のよりよい変容が学校と家庭で共有でき、児童が主体的に学べる学校を継続し向上させたい。

一方、一部の記述では、前述の家庭学習に関するものの他にも、課題や改善への指摘があった。

そのうち、通学路の危険箇所を指摘する内容に関しては、町へ危険箇所の改善を要望したり、当該のPTA地区別懇談会で通学路について話し合ったりしているが、今後も検討と対策を重ねたい。

また、個別懇談の充実については、職員からも同様の声が上がっていることもあり、来年度より、懇談日当日の時間割や下校時刻の調整も図りながら懇談時間に余裕を持たせること、また、特別支援学級の児童の保護者も交流学級の担任と懇談するようにすることなどについて改善を図りたい。

道徳教育の進め方やその効果のみとり方などに関する意見もいただいている。児童の道徳性は、学校、家庭、地域が一体となり涵養していくものとの前提にたちつつ、学校では教育課程の価値項目に沿って道徳科の授業をしっかりと行い、その時間を要として教育課程全体で道徳教育を行っている。こうした道徳教育の理念や授業等の実際について、家庭や地域にも理解していただけるよう、今後も啓発・周知に努めたい。

なお、自由記述欄以外への記入も含め、質問内容や選択肢段階の設定等、アンケートの様式や回答方法についての意見も若干いただいている。より効果的なアンケートとなるように、参考にしていきたい。